

加古川市議会報告

2021年 夏季号

発行●市議会議員 岸本たてき・市議会議員 立花しゅんじ 加古川市加古川町北在家2000 TEL 079-427-9303

市議会議員

岸本たてき

●総務教育常任委員
●加古川市
都市計画審議会委員



市議会議員

立花しゅんじ

●建設経済常任委員
●加古川市
青少年問題協議会委員



コロナ禍から 市民の命と暮らしを守る市政に!

感染力が強く重症化のリスクも大きい変異株が広がっています。医療危機対策と、コロナ封じ込めを戦略目標にすえ、「ワクチンの安全・迅速な接種」、「大規模検査」、「経済支援」の3本柱で対策の強化を求めました。

ワクチンの安全で迅速な接種と経済支援を

日本のワクチン接種率は、世界で128位と大きく立ち遅れています。迅速なワクチン接種が重要です。

ワクチン接種の申し込みでは「予約がとれない」「回線がパンクした」など問題続きでした。

郵便など「ネットと電話」以外の受け付けや接種日時と会場を指定する提案を出し所見を質しました。

若年層へのワクチン接種と市役所等、公共施設やこども園・小中学校の職員へ、優先したワクチン接種を求めました。

また、かかりつけ医等、市内医療機関でのワクチン接種の進捗状況について質しました。

経済の問題では、飲食店以外の業種の方からも、売り上げ減少の相談が多数寄せられており、実態に見合った経済支援が必要です。

具体的な対策として、市内でのみ活用できる経済支援クーポン券の配布と水道料金引き下げによる経済支援策を求めました。



PCR検査の抜本的拡充で感染封じ込めを

「希望する市民へ、新型コロナウイルス検査キットの無料配布求める」

コロナウイルス感染の特徴は、発症する前に、あるいは発症していても無症状のまま感染を広めることが明らかになっています。抑え込むためには大規模PCR検査を頻回に行うことが必要であることは政府も認めています。

無症状感染者の早期発見の取り組みが広島など自治体独自に行われています。

積極的な対策として、本市の市民全員が検査したとしても、5

億2千万円あれば一巡できます。

市の積立金の現在高は211億円を超えており十分な資金があります。財政的には問題ありません。

アクア交流館の取り壊しに2年間で4億数千万円もの予算を使うより、市民が安心できる施策に予算を活用することです。

希望する市民へ、新型コロナウイルス検査キットの無料配布することを求めました。



公共施設のあり方について考える

加古川図書館(旧加古川市公会堂)

1935年築の旧加古川公会堂の存続が危ぶまれています。市民の歴史を無言のままに語る貴重な建物の保存がカギです。郷土の文化を大切に市政を求めます。



平荘湖アクア交流館解体

年間利用者延べ8万人の温水プールが、経費節減目的で2年前に閉館、今年度は取り壊し工事に3億数千万円と決定しました。しかし、跡地の高度利用計画は見えません。



加古川準看護専門学校跡地売却

加古川小学校・加古川図書館に近接する建物で、本町周辺の文教地区の雰囲気を醸し出す建物です。児童クラブなど建物の利活用を求めましたが、取り壊し条件付き売却となりました。

デマンド
タクシー



10月から本格実施
市内全域に拡充を求める!

今年1月13日から八幡地域で実証実験として運行されました「ちょいそこ(デマンドタクシー)」は、579人の市民が登録、コロナ禍ではありましたが、その内88人が利用されました。1日当たりに換算すると10.6人が利用したことになります。登録者へのアンケートでは、80.4%が満足としました。そして、「加古川駅や中央市民病院まで行けるよう範囲を広げてほしい」と要望されています。市は10月から利用料金を1回200円で本格実施する方針です。さらに、市内全域で利用できるデマンドタクシーの運行を求めています。